

ときがわ町地域福祉計画推進委員会、地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会
会議録

会議の名称	令和4年度 第1回ときがわ町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会（書面開催）
主な議題	昨年度、策定委員会にて地域福祉計画・地域福祉活動計画について、改定の概要や県支援計画の概要、計画の見直しの背景、作業手順等について検討した内容を踏まえ、今会議は、 ◇計画の骨子となる「地域福祉計画」の大枠を示し、委員各位からの意見聴取を実施。
開催日時	令和4年8月8日（月）【書面開催】
開催場所	
会議録の公開（非公開・一部非公開）とその理由	公開
出席委員	石川加代子委員、村田陽子委員、高山隆史委員、宮寺祥仁委員、正木秀雄委員、村田朝子委員、西澤夫美子委員、村田陽平委員、野口本和委員、矢作正紀委員、小池猛委員、岡野正一委員、小池裕子委員、谷野裕子委員、岩田利二委員 *今回は書面開催のため正副委員長の選出なし。名簿順に委員名記載。
事務局	福祉課：山崎課長 蓮沼主幹 社会福祉協議会：桑原事務局長 嶋田主査
<p>審議等内容又は概要</p> <p>1 開会 (省略)</p> <p>2 委嘱状の交付 (郵送)</p> <p>新任委員へ交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ときがわ町PTA連合会：高山隆史委員 ・ときがわ町区長会：宮寺祥仁委員 ・ときがわ町老人クラブ連合会：正木秀雄委員 <p>3 あいさつ (省略)</p> <p>4 資料の配布 (郵送)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期ときがわ町地域福祉計画（案） ・ときがわ町立小学校5年生及び中学校2年生とその保護者宛てアンケート ・団体ヒアリング調査書類 	

5 質疑・意見及び事務局からのコメント

①委員： コロナ禍において、新型コロナウイルス感染が収束する兆しが見られない状況の中で、これから5年間の計画は、新型コロナウイルスの新しい生活様式に沿って考えていく必要があると思います。

たとえば、民生児童委員協議会として、高齢者の訪問活動をはじめ、「ふれあいサロン」を実施していくことになれば、3密を避け、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」、「換気」などに心がけ、新型コロナウイルス感染症に気をつけて健康を維持していくことを盛り込んでいくことが大切であると思います。

現在、さまざまな事業が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となっています。計画を策定するにあたって、現在の事業内容について検討が必要であると思います。

⇒（事務局）新型コロナウイルス感染症の流行により、私達の生活は数年前には想像もできない事が常態化しつつあります。いったいいつになれば元の生活に戻れるのか予測不能な状況です。このため、これからの5年間の計画は新型コロナウイルス感染症を念頭においた計画となるよう検討してまいります。

②委員： 安心して暮らせるためには、地域が担う役割は今後ますます重要となりますが、プライバシー尊重の社会がさらに進み、加えて今のコロナ禍で、地域活動が制限されるなど、逆に地域の力が弱まっているように思います。

隣組への不加入など、地域との繋がりを嫌い、道路清掃や祭り、防災訓練など、顔見知りとなる機会を自ら放棄し、必要なときは直接公助を要求する風潮下では、隣近所の参入する余地さえありません。

従って、共助の役割を論じる前提として、地域を再生する取り組みが、まず必要なのではないかと思います。この計画の守備範囲を超えているかも知れませんが。

一例として、いわゆる会社人間が、退職後、地域に戻って来られる（溶け込める）方策を、何か打ち出してみたらどうかと思います。

⇒（事務局）少子高齢化に伴う労働力確保のため、国全体として定年延長と並行して年金受給開始年齢の延長の施策が実施されております。

このため地域活動に携われる環境にある人は、70歳近くなった方、あるいは70歳以上の高齢者が担っていく傾向にあります。体力や健康面などの問題を抱えている方も少なくなく、地域活性化に十分能力を発揮していただくことが難しい場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の大流行が拍車をかけて、地域のふれあいやつながり、助け合いなどの地域共生社会を構築し辛い環境になっています。

いずれにしても、少子高齢化の進展により高齢者のマンパワーは

今後益々重要になり、多いに期待されるものです。退職した後に地域に戻り、住民が安心してお互いに助け合い、支え合って暮らしていただけるような施策について、活動計画の中で展開できる取り組みを検討してまいります。

③委員： 私自身80歳一人暮らし（妻～平成30年死去）高齢者生活及び社会福祉には関心を持つ一人ですが、今回「ときがわ町の地域福祉計画推進・地域福祉計画策定委員会」の一員とし参加する事となりました。私は今回ときがわ町「高齢者団体の老連会長枠所属」として委員の見地からその任務を果たすべく微力ながら努める事を心して居るところです。高齢者社会の現在にあっても、老連加盟の地域組織が解散したり、加盟クラブでも会員数が減少する傾向にあります。各地域組織もそれぞれ懸命に活動を推進して居る訳ですが加入者ニーズ及び活動面の対応など課題を抱える状況と言えますので、今回事業目標を拝読すると各地域内の活動推進目標もあり高齢者の福祉事業及び交流対策面での活動と老連地域単位組織も連携し合い改善策が見通す事が出来ないか期待するところです。公助～共助～自助が叫ばれる今日、行政が行う施策・地区～グループ～団体など行う共助・各住民が行うべき可能な自助努力。これらの相乗効果で子供から高齢者まで住んで良かった～健康長寿の町を目指す事が出来るものと感じます。

可能な施策のもと多くの年代層で今回の事業計画が活用されそして実践される事を望みます。財政的な福祉策・共助・自助行動にて町民間につながりと心が通う福祉策が日常化される事を希望するものです。町民の多くの方・多くの層の方へ理解・協力そして浸透を図るには ・考え考え～・呼び掛け呼び掛け～・努力努力の積み重ねでしょうネ。・推進する事業内で高齢者対応等老連に係る事項では老連内の会議、研修も検討したいと考えます。最後に私自身～無知微力ですが今回の策定委員会のメンバーとして努力します。

※「第3期ときがわ町地域福祉計画」に係る意見欄では＝求める意見がどのような点か、解釈しないで勝手に記入しましたのでご配慮を。

⇒（事務局） 日常生活の身の回りで発生する問題を、先ずは個人や家族で解決し（自助）、個人や家庭で解決できない問題は地域で解決し（共助）、地域で解決できない問題は行政が解決する（公助）、「自助」、「共助」、「公助」の仕組みを意識し、地域で構築していくことが重要です。特に住民や団体、ボランティア、企業等がお互いに助け合い、支え合って問題を解決する「共助」を発展させることは、コロナ禍も相まって、容易には達成できない問題です。

残念ながら家庭や地域のつながり、支える力は年々希薄になってきていると言わざるを得ません。おっしゃる通り、「・考え考え～・呼び掛け

呼び掛け～・努力努力の積み重ね」だと感じます。ときがわ町老人クラブ連合会では昨年度、「在宅高齢者の見守活動事業」を実施していただいております。「共助」活動を行うことのできる地域に根差した貴重な存在であり、これからも多いに期待される社会資源となっております。

- ④委員：（ときがわ町立小学校5年生、中学校2年生用アンケート）問15「あなたは、おとなになってもときがわ町に住んでいたいですか。1ずっと住んでいたい 2他のまちへ出たい 3わからない」について、仕事に他のまちに出たりしても、戻って来たいと思っている子どもがどのくらいいるのか知りたいです。

（質問項目を追加）「他のまちに出ても将来は住みたい」

⇒（事務局）R4.8.29大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。しかしながら全対象者に対し、9月1日発送に向けて既に封入作業を完了してしまっただけ、残念ながら今回のアンケートに反映することができませんでした。次回改定時期の検討課題とさせていただきますのでご了承ください。

- ⑤委員： 資料レイアウトは概ねよろしいかと思えます。

意見があり、8ページからの1. ときがわ町の現状の国勢調査 人口・世帯数の推移（国勢調査）令和2年世帯数4201に対し、12ページ（9）行政区加入率の推移令和2年世帯数は4635になっている。国勢調査（各年10月1日現在）と、ときがわ町総務課統計（各年4月現在）に違いがあるのは何故。

15ページ2. アンケート調査からみえる課題、（2）調査結果の概要の各問のコメントに対するグラフ平成29年、令和4年（赤字）は全て逆になっています。令和4年についてはこれからアンケート調査で結果がでますが、比較でグラフを示す際には調査年度ご注意ください。

⇒（事務局）前者のご質問につきまして、「ときがわ町総務課統計」で使用している「世帯数」は、住民基本台帳上の数を基本に施設入所者を除いた世帯数を使用しております。一方「国勢調査人口」では実態に即して回答していただく性質の調査であるため、必ずしも住民登録上の数字とは一致するものではなく、更に調査月に差異があることもズレが生じる原因と考えられます。

また、後者のご質問ですが、お送りしました令和4年8月8日付け本計画の開催通知の下段※1に「現段階では下欄のページ数や緑色に反転した箇所は、作業を進めていく中で変更がありますのでご承知ください。」と記載させていただいております。15ページ2. アンケート調査

からみえる課題、(2) 調査結果の概要部分は、第2期計画の内容等を完全には消去修正せずに、グラフの「令和4年度」標記のみ修正し、緑色に反転しております。これからアンケート調査を実施するため、全く正しい内容とはなっておらず、イメージ図としてのみ掲載させていただきました。未完成な状態での資料配布となっており、非常にわかり辛い計画(案)となつてしまい申し訳ありませんでした。

今回のアンケートが出そろい、集計できましたら正式な内容を掲載させていただきますのでご了承ください。

⑥委員： アンケートやヒアリングを実施し、町の実態を把握するのは、とてもよいことだと思います。

ただ、これは私の勉強不足のせいかもしれませんが、これまで第2期の計画と実践があったわけで、その計画の何が実施できて効果があったのか、何がまだ不十分だったのか、その実態が含まれていないような気がします。その上に立っての、3期の計画かなと思うのですが・・・。

⇒(事務局) 第2期のときがわ町地域福祉計画の進捗状況の評価を踏まえての第3期ときがわ町地域福祉計画の策定となります。ときがわ町の計画では数値目標を設定しておりませんので、具体的な数値を示すことができませんが、第3期計画の中に「第2期ときがわ町地域福祉計画の進捗状況」に関するページを追加して作成します。

⑦委員： いつも感じることですが、福祉計画だけではなかなか難しいことも、P42にある様に子育て支援事業等々、各分野と連携し点から線そして面となる様なとり組みがのぞまれます。

また子ども出生数が減少は本当に喫緊の課題とされながらも、下降線の一途です。小中学生のアンケートからもこの町に残る、もしくは戻ってくる？も現状では？です。若い家族の移住の支援や推進を強化しなくてはと言われ続けているものの、なかなか効果がある様に思えません。そんな中、気になったのが保護者アンケートで差別や偏見を感じる・・・が気になりました。また、老人クラブへの参加人数がかなり減少していますが、これは人生80年から100年と言われる今、まだ何かしらの仕事に就いていらっしゃる方が多くなったとの意味もあるのでしょうか？

それであれば現役こそ最高の年金でしょうから、良いこととは思いますが・・・。

⇒(事務局) 少子化対策については、国をあげて様々な施策を展開しています。各自治体は我先にと移住政策に乗り出し、特定の地方では子どもが増えた、減ったと子どもや若い世代を取り合っているのが現状です。おっしゃるようになるように思うように効果のある打開策がみつからず、非常に悩

ましい問題です。

保護者アンケートの中で、「差別や偏見を感じることはありますか」という質問をさせていただきました。地域の中で安心して暮らし続けていけるよう全ての人々が尊重され、権利が守られながら共生していく社会づくりが求められます。町民の皆様の現状を把握し、地域福祉のための取り組みに反映できたらと考えております。

6 閉 会 （省略）